

# 1986年度／昭和61年度(昭和61年4月～昭和62年3月)



## 役員

部長：阪埜 光男  
名誉師範：清水 正一  
師範：清水 直臣、安藤 勝英、加藤 雅晴  
総監督：成毛 秀臣  
監督：橋本 光蔵  
主将：古井戸康雄  
主務：西脇謙二郎  
副将：尾川 豊隆、永井 勝  
学連委員：小林 達、井上 猛  
4年生：許斐 氏隆、山西 良彦、清水 勉、  
末永 二郎、河野 文彦、大隅 智弘、  
渡辺 達、田村 俊二  
体育会常任委員：尾辻 英史、渡辺 新、池田 伸之  
副務：厚見 直哉、岩崎 清信  
新人監督：篠田 幸彦  
日吉高コーチ：渡辺 新、久保田正広、石本 千明  
志木高コーチ：池田 伸之、谷岡 龍雄  
普通部コーチ：清水 賢、真野 照久  
中等部コーチ：加賀美有一、小林 俊二  
幼稚舎コーチ：鈴木 康之、村尾 洋介  
月次係：倉形 興斎  
合宿所主務：渡辺 新  
合宿所副務：小野 英次

## よく飲んだ4年間

### 西脇 謙二郎

'86年の活動は、前年度の2部大会優勝の勢いを引き継いで始まった。春、1部復帰を賭けて臨んだ東京学生大会。後一步のところで夢を叶えることは出来なかった。夏、毎日終日稽古。早慶戦の勝利に向けて主将・古井戸の元、練習に励む。秋、早慶戦。勝利を確信していた我々としては不本意な引き分け。そして、2部大会へ向け再び猛稽古。

しかし、よく酒を飲んでいた集団だったと思う。宴会中心にしてみると…。

幹部交替式。先の4年生に感謝の意を表し酒を注ぎ、次の幹部は決意を新たに酒を飲む。ここから新年次の活動開始。冬。オフの期間には、他部も招いて忘年の鍋大会。春。上野の花見、そして新入生歓迎会。夏、毎日の稽古の後のビール。厳しい毎日の中の一時の潤い。今思えば不健康なことだが、稽古が終わっても水分を取るのを我慢して、最初の喉越しの快感を大切にした。秋、早慶戦の打ち上げと1年生には試練の温泉旅行。そして幹部交替式により次の学年への引継ぎ。どの宴会の時も、ビールケースが合宿所の食堂に山積み。諸先輩から多くのご寄付を頂戴した。全く飲まなかつたのは、各試合前の合宿中、禁酒期間の間くらいだったか。

宴席では、多才な面々が様々なパフォーマンスを披露。タップダンスを踊る子供、バンダナをした波乗り男、大きなマイケル・ジャクソン、妖しい手品師、玄人はだしのピアノ弾き、勝負が好きな蟻地獄、その勝負を受けるお年寄り、浪花の説教師、ジャイアント馬場を信奉する駄洒落

人、そしてプレスリー等々。そういえば、プレスリーは台湾でも熱唱した。

この年、秋、先輩・関係者各位のご援助を賜りながら、台湾へ海外遠征合宿を行った。台北、台中、高雄等台湾各地で、柔道を通じ地元の方々と親睦を深めると共に、異文化に触れる機会を得ることができ貴重な経験となった。(個人的には、この3年後、再び台北の地に戻り中国語を学ぶことになり、現在の上海駐在生活に繋がって行く。) 台湾遠征の最中にも、当然いろいろな出来事があった。到着初日に、ホテルにチェックイン後、夕食までの自由時間に床屋に行って坊主頭にした者がいた。これには、笑った。何故、台湾で坊主（五分刈りよりも短い五厘刈り）なのか？

以上、思いつくままに主務として在籍した1年間を振返らせて頂いた。主務としては至らない点も多々有り、部員各位にも相当迷惑をかけたことと思う。それも「今は昔」と酒の肴にして頂き、今宵も乾杯！

# 試合記録

## ■第35回 東京学生柔道優勝大会 昭和61年6月1日 日本武道館

1回戦	シード					
2回戦	本塾	2	-	3	大正大学	
	小野 英次	2年	○	崩れ上四方固め	莊司	
	狩野 学	1年		払腰	近野	
	渡辺 新	3年		内股	塩貝	
	尾川 豊隆	4年		崩れ上四方固め	永島	
	許斐 氏隆	4年		引分け	鯖戸	
	古井戸康雄	4年	⊖	背負投げ	北村	
	永井 勝	4年		引分け	大庭	

## ■第5回 東京学生柔道体重別選手権大会 昭和61年9月14日 日本武道館

-60kg級	2回戦	尾辻 英史	4年	○	合せ技	宮島久雄	学習院大	
	3回戦	尾辻 英史	4年		背負投げ	○	沢井康明	青学大
-65kg級	1回戦	末永 二郎	4年	○	不戦勝	増山美哲	成城大	
	2回戦	末永 二郎	4年		背負投げ	○	尾坂和昭	亞細亞大
	2回戦	清水 賢	3年		棄権	○	鈴木政彦	東海大
-71kg級	2回戦	永井 勝	4年	⊖	体落し	丸川岳浩	青学大	
	3回戦	永井 勝	4年		背負投げ	鈴木正宣	日本大	
	2回戦	河野 文彦	4年	⊖	判定	間野直明	立教大	
	3回戦	河野 文彦	4年		棄権	○	甘利政一	亞細亞大
	2回戦	加賀美有一	3年	○	腕拉ぎ十字固め	永山康雄	武蔵大	
	3回戦	加賀美有一	3年		体落し	的場 勉	大東文化大	
	2回戦	久保田正広	3年		判定	⊖	土門 賢	専修大
-78kg級	1回戦	石井 敏	2年	○	横四方固め	福永誠一	東大	
	2回戦	石井 敏	2年		送り足払い	⊖	中里 浩	大東文化大
-86kg級	2回戦	山西 良彦	4年		棄権	○	長嶋幸夫	国士館大
-95kg級	1回戦	許斐 氏隆	4年		裏投	○	田中勝一郎	中央大
	1回戦	渡辺 新	3年	○	内股	赤津徹郎	東京水産大	
	2回戦	渡辺 新	3年		上四方固め	○	遠藤幸輝	日体大
	1回戦	小野 英次	2年		小外刈り	⊖	江口善幸	大東文化大
95kg超級	1回戦	清水 勉	4年		内股	○	堀 鏡	大東文化大
	1回戦	狩野 学	1年	⊖	判定	田渕敬英	専修大	
	2回戦	狩野 学	1年	⊖	大外刈り	土屋宏司	大東文化大	
	3回戦	狩野 学	1年		大内刈り	○	金野 潤	日本大
代表決定戦		狩野 学	1年		大外返し	○	吉井 誠	国士館大
								ベスト16

## ■第18回 全日本柔道新人体重別選手権大会東京予選 昭和61年10月5日 講道館

-65kg級	1回戦	岩崎 清信	2年		背負投げ	○	尾坂和昭	亞細亞大
-71kg級	1回戦	村尾 洋介	2年		腕拉ぎ腕固め	○	田井治資興	成蹊大
	1回戦	真野 照久	2年		判定	⊖	大久保武生	葛飾区
-78kg級	1回戦	石井 敏	2年		判定	⊖	金子宗広	東農大
	1回戦	松井 聰司	1年		判定	⊖	杉岡洋二	青学大
-86kg級	1回戦	小林 俊二	2年		袈裟固め	○	水沼正彦	専修大

## ■第38回 早慶対抗柔道戦 昭和61年10月10日 早稲田大学柔道場

本塾	引分け	早稲田大
久保田正広 3年	引分け	優秀選手：尾川豊隆、石井敏、狩野学 亀山展広

石本 千明	2年		背負投げ	⊖	村本泰雄
篠田 幸彦	3年		引分け		村本泰雄
谷岡 龍雄	2年		引分け		鈴木克行
新井 基之	3年		引分け		岡村忠彦
渡辺 新	3年		引分け		松島育臣
真野 照久	2年		引分け		大原英一郎
許斐 氏隆	4年	⊖	注意		坪川任宏
許斐 氏隆	4年		背負投げ	⊖	森忠義
鈴木 康之	3年		引分け		森忠義
山西 良彦	4年	○	大外刈り		平栗明
山西 良彦	4年		合せ技	○	小泉明生
山田 直	3年		送り襟絞め	○	小泉明生
狩野 学	1年	○	内股		小泉明生
狩野 学	1年	⊖	大外刈り		長瀬勉
狩野 学	1年		小内刈り	⊖	昌谷治彦
池田 伸之	3年	○	大外刈り		昌谷治彦
池田 伸之	3年		引分け		三船貴司
清水 勉	4年		引分け		伊藤茂
小野 英次	2年		引分け		鷺津洋
河野 文彦	4年		巴投げ	⊖	川上博之
石井 敏	2年	○	縦四方固め		川上博之
石井 敏	2年		引分け		二本松敬太
尾川 豊隆	4年	⊖	払腰		大塚正芳
尾川 豊隆	4年	⊖	内股		高木志貫
尾川 豊隆	4年		背負投げ	○	三浦正彦
永井 勝	4年		体落し	○	三浦正彦
古井戸康雄	4年		引分け		三浦正彦

## ■第29回 東京学生柔道二部優勝大会 昭和61年10月26日 国士館大学柔道場

1回戦	シード					
2回戦	本塾	7	-	0	明治学院大	
	小野 英次	2年	○	崩れ上四方固め	倉持	
	渡辺 新	3年	○	上四方固め	天野	
	石井 敏	2年	○	腕拉ぎ十字固め	切田	
	狩野 学	1年	○	すくい投げ	富永	
	尾川 豊隆	4年	○	内股	寺川	
	古井戸康雄	4年	○	背負投げ	中殿	
	永井 勝	4年	○	崩れ上四方固め	川嶋	
3回戦	本塾	②	-	2	東京学芸大	代表戦勝ち
	小野 英次	2年		送り襟絞め	○	山本
	渡辺 新	3年		引分け		栗田
	石井 敏	2年		引分け		西幅
	狩野 学	1年	○	大外刈り		坂本
	尾川 豊隆	4年		引分け		小宮
	古井戸康雄	4年				柳浦
	永井 勝	4年		背負投げ	⊖	平野
代表戦	狩野 学	1年	○	大外刈り	⊖	山本
準決勝	本塾	4	-	1	青山学院大	
	久保田正広	3年	○	一本背負い		杉岡
	渡辺 新	3年		引分け		山本
	石井 敏	2年		引分け		東本
	狩野 学	1年	○	大外刈り		各務
	尾川 豊隆	4年		小内巻き込み	⊖	丸川
	古井戸康雄	4年	⊖	返し技		高畠
	篠田 幸彦	3年	○	払腰		長田
決勝	本塾	1	-	2	駒沢大	準優勝
	久保田正広	3年		内股	○	鈴木
	渡辺 新	3年		引分け		酒井

優秀選手：古井戸康雄、石井敏、狩野学

石井 敏 2年	○	腕絡み	田 中
狩野 学 1年		引分け	斎 藤
篠田 幸彦 3年		大内刈り	塙 谷
古井戸康雄 4年		引分け	戸井田
小野 英次 2年		引分け	大 越

■遠征試合 昭和61年11月18日 中華民国台中市柔道館

本 勝	9	-	11	台中市選抜
-----	---	---	----	-------

■遠征試合 昭和61年11月19日 中華民国高雄市柔道館

本 勝	14	-	6	高雄市選抜
-----	----	---	---	-------

■遠征試合 昭和61年11月21日 中華民国中央警官学校道場

本 勝	5	-	6	台灣選抜
-----	---	---	---	------

■遠征試合 昭和61年11月22日 中華民国台北市松江柔道館

本 勝	14	-	7	台北市選抜
-----	----	---	---	-------

# 台灣遠征雜感

前監督 橋本 光蔵

今回の塾柔道部の訪台は昭和三十四年・四十三年・四十九年・五十八年につづいて五度目の遠征となった。五十八年の前回はバンコック、シンガポールを歴訪しての訪台ということで滞在日数も短いものであったから、今回の北から南まで台湾を縦断するのは十二年振りである。

此の度の主たる相手は来年のソウル五輪を目指して昨夏強化合宿に一ヶ月間日本を訪れた台湾選抜チーム約二十名、中でも日吉の合宿所に一週間滞在したジュニアの選手達が主体となり、台中・高雄・台北でその地域の選手も混ざった多人数の試合をし、メインイベントとしては中央警官学校に於て台湾選抜チームと十五人の点取戦を行い合わせて四試合を八日間の滞在中に行つた。

当方は全員参加の海外遠征ということで、主力メンバーとしては二年生の小野が怪我で不参加の他は殆ど全員が試合に出場出来る状態であった。それ故台中・高雄・台北は多人数の試合をお願いして、遠征に参加した者は全員が一回以上に出場する事を主眼に考えた。依って滞在三試合目の中央警官学校の六百畳の大広場で行われた台湾選抜チームとの十五人点取戦は塾としてはベストメンバーで臨んだ心算である。結果は軽量級から中量級までの十人が四引分六敗と全くの完敗、重量級の五人が全員寝技を主体とした試合展開で勝つ事ができて、どうやら勝負としては互角の形態を保てた様に思う。

内容としては台湾選抜の軽量・中量級の選手は技・気迫共に素晴らしい、特に三ヶ月程前に日吉道場で一緒に稽古をした連中が順調に伸びて、見違える様な実力を身につけた者も何人かいるのには驚いた。

昨夏塾の日吉合宿を皮切りに福岡大学・近畿大学・岩手県柔連で強化合宿を行い、その一ヶ月間の日本での武者修行の成果が十二分に發揮された様に思う。

台湾チームの感想を申し上げると、勝負にこだわらない堂々とした柔道を心懸けている事、ファイトがとてもある事、基礎体力が良くできているのか、この選抜チームに入っている選手達は殆ど怪我が少なく、強靭な身体と素晴らしい精神力を合わせ持った選手達と言う印象を強く感じた。

中でも私が特に強く印象に残ったのは、選抜チームの軽量級の羅友維君である。塾の主力メンバーの一人である石井(二年生)との一戦で、結果は粘りに粘った羅君の背負投有効による優勢勝であったが、実に見応えのある勝負であった。寝技の石井としては徹頭徹尾寝技での勝負を挑み、再三再四得意の縦四方固に入つて抑へ込むのだが、せいぜい十五秒単位でどうしても逃げられてしまい、完全に入られた縦四方固をバネと氣力と粘りで逃れる羅君の健闘ぶりは、この試合での最高の盛り上がりをつくった。試合の後、完全な抑へ込みに入りながら再三逃がしてしまった石井を責めるよりも、羅君の氣力充分な試合を称賛したのは私だけではなかったと思う。

他の試合も双方共充分気合のこもった勝負で、国際親善試合としては誠に良かったと思う。

総合的に台湾チームと塾との比較をするならば、軽量級は実力的に台湾が大分優っていて、重量級はこちらがやや歩が良い。又、立技は台湾、寝技は塾の方に一日の長があるといったところ。まあ現在の塾柔道部の実力としては、相手になっていただぐのには丁度良いところではなかったかと思う。と同時に、今回の遠征がそういったところからもとても有意義であったものと確信する。塾柔道部としては今回の遠征における経験・体験を今後の部発展の為に充分生かす事が出来る様節に念願する。

終わりに台湾柔道界の最高指導者である張聰輝氏とその補佐役の廖謀煥氏、そしてその下にいるスタッフの数名の若手の方々の塾柔道部にお寄せ下さったご好意には心よりお礼申し述べさせていただきます。又台湾三田会、台湾慶應会の皆様による心のこもった歓迎会等大変お世話に成ったことに厚く感謝の意を表します、とともに柔友会諸兄にご報告申し上げます。

今回の台湾遠征は昨春ローマで開かれたジュニアの世界選手権に出席された清水正一先生が前述の張聰輝氏に橋渡しをして下さり、誠にスムーズに実現する事が出来ました。この紙上をお借りし清水正一先生には厚くお礼申し上げます。

# 台湾遠征を振り返って

前主将 古井戸康雄

今回の遠征で私なりに考え感じたことは、非常に多くあったように思います。特に試合を通じて感じたことは、台湾選手の実力が、夏に我々と稽古をした時よりも格段に上がっていたということです。試合の中で、夏に安藤師範から学んでいった技で我々が負けたこともありました。日本で得た技術を確実に身につけていた台湾選手の精進と柔道に対する姿勢を、我々は学ぶべきであります。

また、台湾ではまだまだ柔道の設備が不足していて、我々はさまざまな場所で試合をしなければなりませんでした。日本と環境の違う所での試合に、我々は非常に苦労をしましたが、環境の変化に対しても勝つことのできる精神力の鍛錬が必要であることを痛感でき、そこに今回の遠征の意義は大きかったと思います。

さらに、今回の遠征で勝って自信をつけた者、成績のあまり良くなかった者もいましたが、勝敗は重要であることにちがいはないのですが、結果はあくまでも結果であり、その結果を素直に受けとめ、次に自分がなにをすべきかを考え、それを実行することこそが最も重要であり、この遠征を本当に意義あるものにするために必要であると思います。

最後に、このような貴重な機会を与えて下さった先生・先輩の方々に対しましては、柔道に対する視野を、あらゆる面において広げていただき、部員を代表して深く感謝するとともに、今回の遠征で学んできたことを自己に蓄積することによって、その一部でもお返しできるよう努力する所存であります。

## 台湾ナショナルチーム歓迎会

時期は前後致しますが、八月十五日に台湾より中華自強柔道隊親善訪問団が来日し、一ヶ月の予定で本塾、福岡大学、近畿大学、岩手県柔道連盟と約一週間ずつの合宿を行いました。

本塾では八月十六日より二十二日まで日吉合宿所に滞在し、合宿を行いました。

急な来日でしたが柔友会では八月十六日（月）に八芳園で笠原会長主催による訪問団の歓迎会を開催致しました。

当日、台湾側は役員三名、選手十六名が参加し、本塾側も阪塁部長、加藤師範、安藤師範、柔友会役員七名、橋本監督、監督補佐二名、学生十名の計二十三名が出席しました。

笠原会長による歓迎の言葉に対し、張団長より謝意が述べられ阪塁先生に乾杯の音頭を取って頂きました。

宴会では相互に記念写真を撮ったり、台湾の歌が披露されたり、カラオケも交えての独演会や、音頭に合わせてのビール飲み競べ等、友好的な中にも、賑やかで和気合々の宴会となり、台湾チームにとって楽しい一時を過ごしてもらうことが出来ました。

柔友会報54号より

